

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100800		
法人名	特定非営利活動法人 オーディナリーサーヴァンツ		
事業所名	釧路市音別町認知症高齢者グループホーム		
所在地	釧路市音別町中園1丁目54番地 (電話) 01547-6-3560		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 3人, 非常勤 10人, 常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	
年齢	平均 84.4 歳	最低 74 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立釧路国民健康保険音別診療所
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

現在の釧路市(旧音別町)より指定管理者の指定を受託し、行政との連携が深く特定非営利法人(NPO法人)が運営するグループホームです。また、地域の幼稚園、小学校との体験学習の受け入れや文化祭などへの行事参加を通じた交流が行なわれていたり、ボランティア協会や町内会、近隣住民など日常生活を通じて交流が促進されています。また、法人内での職員の事例研究やリスク回避などの研修も行なわれると共に「気付き」ノートの活用で利用者一人ひとりの日々の生活の中でケアサービスの質の向上に活かされています。持続可能な日常生活を過ごせるようにパワーリハビリテーションの導入や嚥下体操などを通じた予防介護にも取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、玄関周りの水溜まりの凍結で利用者の転倒の危険性について課題があげられていましたが、行政と相談して凍結防止剤の散布など改善策がとられています。今後さらなる、凍結要因の除去と対策が検討されているので期待しております。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全ての職員が参加して行なわれ新たな気付きや改善の機会として職員で共有されケアサービスの質の向上に利用されています。また、外部評価の結果については家族や運営推進会議に報告される予定で、そこでの意見や要望が改善の機会として活かされています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在6回実施されています。その議題についてはホーム行事参加について(地域行事参加について) サービスの提供について 利用者の日々の生活の様子について 事故報告とその対策について 地域との連携や協力体制について
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月の利用料をご家族に持参戴き、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子、職員の紹介など職員と家族のコミュニケーションを大事にして、意見や不安などが言いやすい雰囲気づくりをしています。また、金銭管理については毎月、出納帳のコピーと領収書を添付して家族に報告されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の幼稚園、小学校との体験学習の受け入れや文化祭などへの行事参加、ボランティア協会や町内会、老人クラブ、婦人会、近隣住民など日常生活を通じて交流に取り組まれています。また、近隣への散歩や買い物、運営推進会議の開催など日常生活を通じて地域との連携が行われています。

2. 評価結果(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常の業務の中で、利用者がその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして独自の理念を作り、職員間で理念の共有がされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長・管理者と職員は、理念をミーティングを通じて共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後は、理念の実践に向けて個々の職員の具体的な目標を設定していく取り組みが検討されています。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の幼稚園、小学校との体験学習の受け入れや文化祭などへの行事参加、ボランティア協会や町内会、老人クラブ、婦人会、近隣住民など日常生活を通じて交流に取り組まれています。また、近隣への散歩や買い物、運営推進会議の開催など日常生活を通じて地域との連携が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全ての職員が参加して行なわれ新たな気付きや改善の機会として職員で共有されケアサービスの質の向上に利用されています。また、外部評価の結果については家族や運営推進会議に報告される予定で、そこでの意見や要望が改善の機会として活かされています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は家族、町内会役員、老人クラブ連合会役員、民生委員、ボランティア連絡協議会役員、婦人会役員、医師、地域包括支援センター、法人理事及びホーム長・管理者、職員で構成され地域との連携や協力について具体的に取組んでいる。	○	今後は、火災や自然災害などの緊急時に地元の人達の協力が得られるような取り組みを委員や行政の協力を得ながら推進していくことが計画されています。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政との相談や連携についての重要性を理解し、日々ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。また、運営推進会議の議事録についても行政に報告されている。	○	今後は、行政や地域包括支援センターの協力を得ながら地域の人達への研修会や認知症に対する啓発等取り組んでいくことが検討されています。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料をご家族に持参戴き、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子、職員の紹介など職員と家族のコミュニケーションをとり報告されている。また、金銭管理については毎月、出納帳のコピーと領収書を添付して家族に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自己評価・外部評価の結果は、家族に報告されて意見を聞く機会を作ったり、来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりに取り組み苦情相談窓口を明確にして、苦情・相談ができる体制を整えて、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所、管理者は、職員の離職や異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での職員の事例研究やリスク回避などの定期的な研修も行なわれると共に「気付き」ノートの活用で利用者一人ひとりの日々の生活の中でケアサービスの質の向上に活かされ、職員を育てる取り組みが実践されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて他施設との交流が行なわれ開かれたグループホームである。また、同一法人内での研修会や交流などが行なわれケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後は、さらに他施設との相互訪問など積極的に取り組んでいく計画がされているので、期待されます。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には、利用者・家族の見学や職員との懇談などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるように相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と一緒に、畑作りから収穫まで作業をしたり、調理方法など相談しながら食事の準備をしたり、利用者の過去の大事な出来事や生活歴を把握して、本人の思いや意向を尊重して支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握して、散歩や買い物、ドライブ・外食など積極的に外出の機会を多く作ったり裁縫や掃除、書き物などの趣味への支援や調理や食事の準備・後片付け、食の嗜好の把握など本人を尊重した取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は、センター方式で作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的なものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、計画的に見直しが行われています。また、毎月サービス担当者会議が行なわれ職員の意見や利用者・家族の要望、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院・パワーリハビリテーションの支援や要望のある場合には散歩や買い物、外食、畑作業など柔軟に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、指針が定められ家族にも説明されている。また、医療機関と連携して、利用者・家族とも段階的に繰り返し相談しながら慎重に検討対応するよう職員間で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取り組みが行われている。また、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重して声かけなど支援するよう取り組まれている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意向やペースを尊重して、入浴や調理、食事の準備・後片付け、掃除、散歩や買物など支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が本人の希望や力量に応じて、一緒になって楽しんで調理や食事の準備をしている。食事は、職員と利用者が一緒にとり和やかな雰囲気を出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回を目安に利用者の希望や意向に応じて対応している。また、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、畑作りから野菜の収穫までや裁縫や掃除、調理、外食や買い物、気分転換のためのドライブなど外出の機会も多くつくられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブなど気分転換ができるように取り組まれたり、小旅行や外食ツアーなど積極的に外出ができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように、消防署の協力を得ながら実技を伴う火災避難訓練が実施されている。消火設備についても自主点検が実施され防火点検チェックリストで記録されている。	○	今後は、緊急時の自然災害や火災時などに対応できるように近隣の住民も参加した避難訓練を実施して、日頃より協力が得られる働きかけを行うことが計画がされています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎年、栄養士による栄養研修会が開催されている。また、具体的な水分・食事摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって気になる音の大きさや臭いは感じられない。ベランダからは、車椅子でも敷地内の中庭に出られるように工夫され畑作りから収穫までできるように取り組まれ季節感を味わったり、気分転換ができるように配慮された工夫がされている。また、廊下や居間は清潔感が漂い、椅子やテーブルが配置され利用者が思い思いに過ごせる空間も用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族も宿泊可能となっていて、自宅で使用していた仏壇や使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。また、一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。